



◀越中富山薬箱(昭和)

あると安心
置き薬



◀酒田獅子(年代不明)

魔除けなら
お任せあれ

第221回企画展

祈りと医療

昔の人は病とどう向き合ってきたか

令和3年

6月26日(土)～9月6日(月)

会期中無休

疫病
退散!

昔も今も変わらない願い
病を逃れ、健康でありたい!

予防接種は
たいせつ

▶掛図「通俗衛生図解」部分(大正)



▶「鐘馗像」筒井雲泉筆(江戸期)



開館時間 9:00～16:30

入館料 一般200円、高校生90円、
小中学生50円、幼児以下無料、
個人年間券(同伴1名可)530円

※身体障がい者手帳または療育手帳及び精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と、介助者1名の入館料は個人・団体を問わず半額

酒田市立資料館

〒998-0046
山形県酒田市一番町8番16号
電話/FAX 0234-24-6544
メール sakata-city-museum@city.sakata.yamagata.jp



祈りと医療

昔の人は病とどう向き合ってきたか

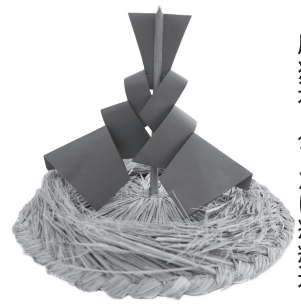
病気がまだ“得体の知れない悪いもの”だったころ、人々は祈祷をしたり疫病神を祀ることで対処していました。また、医療は神頼みではなく人の力で病魔をやっつけようと現在まで進歩してきました。

「祈り」と「医療」——。全く違うように聞こえますが、どちらも「なんとかして病気を逃れ、健康でありたい」という願いの現れです。感染症への緊張が続く今の私たちだからこそ、昔の人が抱いてきた切実な想いに触れることができるのではないのでしょうか。

さまざまな祈りのかたち、酒田の医療・疫病の歴史、家庭で使用された薬などについて、貴重な資料とともに紹介します。



▲佐藤傳兵衛薬舗 引札(年代不明)



▲麻疹送り(または疱瘡送り)の御幣



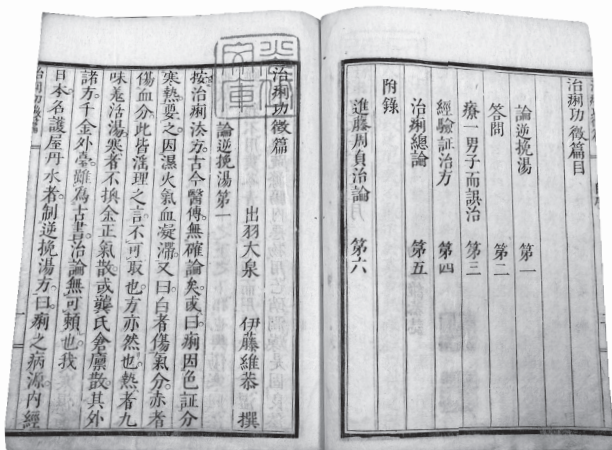
▲寄生虫の駆虫薬(大正)



パッケージに描かれた架空の病の虫たち



▲公立酒田病院(昭和30年代)



▲「治痢功微篇」伊藤維恭撰(寛政3年/1791) 酒田市立光丘文庫蔵

関連企画 調査員による展示解説

日時/7月17日(土)

①午前10時～ ②午後1時～(各1時間程度)

場所/酒田市立資料館 1階企画展示室

定員/各10人

費用/無料(入館料別途必要)

申込/6月26日(土)から受け付け

※駐車場に限りがありますので、申し込み時にお問い合わせください。

展示協力
(50音順)

阿部辰修氏、安藤一雄氏、(公財)本間美術館、酒田市立光丘文庫、松山文化伝承館

酒田市立資料館



アクセス

- ◆JR酒田駅から庄内交通バス(約9分)「大通り商店街」下車徒歩1分
- ◆庄内空港からシャトルバス(約30分)「中町」下車徒歩5分
- ◆日本海東北自動車道「酒田中央I.C.」より約10分(駐車場あり)

次回企画展予告

郵便制度と酒田
郵便制度150年(仮)

9月11日(土)
～11月23日(火)